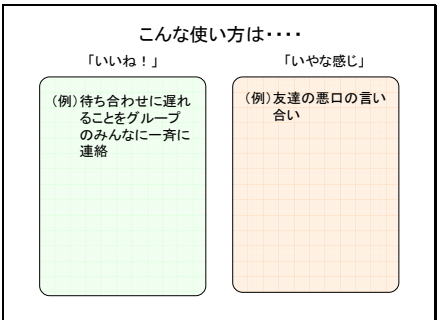
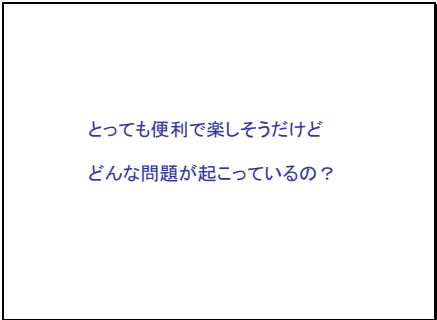
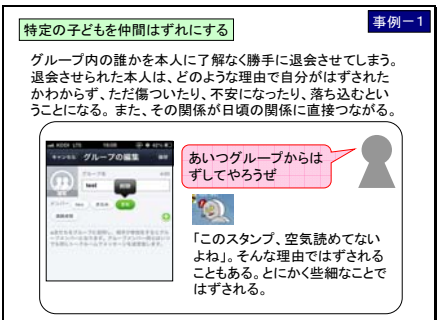


講師用読み原稿

スライド 1 三稿版 『無料通信アプリ』ってどんなもの ～子どもたちが被害者にも加害者にもならないために～ 【知識編】 この資料は 「無料通信アプリが問題になっているのは知っているけど、 使ったことないし、よくわからない」という人のための資料です。 兵庫県教育委員会 教育企画課	本日は、『「無料通信アプリ」ってどんなもの～子どもたちが被害者にも加害者にもならないために～』について研修をします。 この研修パッケージは、「無料通信アプリが問題になっているのは知っているけど、使ったことないし、よくわからない」という人のための資料です。
スライド 2 子どもたちに 無料通信アプリが広まるのはなぜ？ （無料通信アプリでどんなことができるの？）	子どもたちに無料通信アプリが広まるのはなぜでしょう。 みなさんは、なぜだと思いますか？ （数名の意見を聞く） ここでは無料通信アプリの代表的なものとして、「LINE」を例に挙げて説明をしていきます。 まずは、「LINE」の特徴を説明します。
スライド 3 特徴-1 メールは時間がかかるが、LINEはチャットなので手軽で早い。アプリは無料でダウンロード。パケット定額なら利用も無料。 仲の良い友達とずっと連絡が取り合えるし、お金もかからないから最高。 二人だけの秘密の話もできるし、スタンプも使えてとっても楽しい。	「LINE」は、無料でダウンロードができ、会員登録者間でメッセージ交換（チャット）や通話が無料でできます。 操作も比較的簡単で、スタンプと呼ばれるかわいいキャラクターを入れることができ、感情を気軽に表現することもできます。 （女の子たちの会話） 「仲の良い友達とずっと連絡が取り合えるし、お金もかからないから最高。」「二人だけの秘密の話もできるし、スタンプも使えてとっても楽しい。」 このように、子どもたちの間で急速に広まっています。
スライド 4 特徴-2 グループチャット機能があり、大人数で利用できる。 数学の宿題難しくてわからないよ。 授業全然わかんないし（泣） んべ（＃＃＃） 明日休み時間に見せてよ（＼＼） みんなも困ってるんだ。よかった。	グループチャットと呼ばれる機能があり、インターネット上で複数の人が同時にメッセージをやりとりすることができます。 グループのチャットは、メンバー以外には読むことができません。グループを作ったり、参加したりすることも手軽にできます。 そのため、部活などの連絡や試験対策、恋愛相談などにも利用されています。

スライド 5 	スマホで撮った写真や動画も、簡単な操作でアップすることができます。 (女の子たちの会話) 「スマホで撮った写真をそのまま LINE にアップ。とっても便利。」 「写真だけじゃないよ。最近、動画もできるようになったんだよ。」 例えば、今食べている食事や旅行先の風景などの写真や動画を随時アップし、瞬時に友達から返信されるといった楽しみ方などがあります。
スライド 6 	「LINE」の使い方で、こんな使い方は「いいね!」、こんな使い方は「いやな感じ」というのを考えてみましょう。 <例> 「いいね!」 待ち合わせに遅れることをグループのみんなに一斉に連絡 「いやな感じ」 友達の悪口の言い合い
スライド 7 	昨今、LINE を通じた様々な問題が子どもたちの間でも頻繁に起きています。 具体的にはどんな問題があるのでしょうか。
スライド 8 	「LINE はずし」という言葉を知っていますか。 些細なことで、グループチャットのメンバーから特定の人物をはずすことです。 簡単な操作でグループの誰かをはずすことができます。 「LINE はずし」は、現実の人間関係にも影響を及ぼすことがあります。

スライド 9 事例-1 事例（中学2年 女子） LINEのやりとりの中で些細なことから、グループ内で1名が「LINEはずし」され、それ以外の生徒が、LINEで被害生徒の悪口を言い合っていた。 はずされた生徒は誰が、なぜ自分をはずしたかわからなかった。 LINE上での関係は、学校生活にもそのまま影響し、仲間からはずされるようになった。 被害生徒は、それが原因で学校を休みがちとなった。 ※LINEの機能追加により、誰がグループからはずしたかわかるしくみになったが、今度は、はずしたい人だけを残して、残り全員が退会し、新たなグループをつくることで仲間はずれをつくる事象が起きている。	LINE による仲間はずれの事例です。 （事例を読む） このような問題が、子どもたちの中で急激に増加し、社会問題化しています。 グループチャット内という閉鎖された空間で起きている問題のため、発見が遅れることがほとんどです。 （囲いの中を読んだ後）これを「置き去り」といいます。
スライド 10 コラム 既読表示の問題 相手が自分のメッセージを確認すると「既読」が表示される メッセージを読むと、相手に「既読」の文字が表示される。メッセージを読んでも返信しないと「既読無視」といわれ、仲間はずれにされることもある。 やめられなくなるのよね・・・	携帯電話のメールにはない「既読」という表示が原因で、問題が起こることがあります。 メッセージを読んでも返信をしないと「既読無視」「既読スルー」といわれ、「はずし」にあうことがあります。 そのため、返信をしなければならないという「既読プレッシャー」に陥るため、結果的にスマホを手放すことができなくなります。 また、返信し続けることがしんどくなって、読んでいても「既読」の文字が表示されないようにするアプリまでも登場している現状です。
スライド 11 事例-2 見知らぬ人との出会いがトラブルに発展 LINE等で設定したIDを相手に伝えることで、電話番号やメールアドレスを教えることなくLINE等でメッセージのやりとりが可能。コミュニケーションサイトでそのIDを使うことで見知らぬ人との出会いにつながっている。 コミュニケーションサイト（友だち募集掲示板）で相手を検索できる。 1対1のやりとりができるようになる。果たしてどんな相手なのでしょう・・・ どんな人かな？ 優しそうだし、一度会ってみようかな	「ID」という言葉を知っていますか。IDとは、LINE 上で個人を認識するための番号のようなものです。 ネット上には、LINE等のIDが公開されているコミュニケーションサイトがあります。そのIDで見知らぬ人を「友だち」に追加することができます。 IDをネット上に公開して異性との出会い、交際等を希望する行為は、LINE の利用規約で禁止されています。見知らぬ人との出会いから、様々な被害を受ける子どもたちも増加しています。
スライド 12 事例-2 事例（被害者 中学3年女子 被疑者 29歳男性） 被疑者は、LINE IDを交換する掲示板サイトを介して被害者と知り合い、以降LINEを使用して連絡を取り、被害者に児童ポルノ画像を自撮りさせた上、その画像をメールで送信させた。 ※県警によると、県内でコミュニケーションサイトを介して、児童ポルノやみだらな性行為に至り、平成25年上半期に事件として検挙された件数は30件。 ※18歳未満のID検索禁止措置がとられた後、ID検索ができなくてもQRコードを貼り付けることにより連絡ができるようにした掲示板ができています。	見知らぬ人との出会いによるトラブルの事例です。 （スライドを読む） 平成 25 年上半期に事件として検挙された件数は 30 件ですが、実際にこのような事案は数多く起っていると危惧されます。 18 歳未満の ID 検索が禁止になってからは、代わりの方法として、QR コードをコミュニケーションサイトに貼り付けて相手と直接連絡がとれるようにした掲示板も登場しています。 このように、技術的な対策がなされても、次々に新しい方法が考え出されるため、さらに新たな対策が必要になってきます。 使用者の規範意識を高めることが重要です。

スライド 1 3

ID検索機能は「OFF」にしておく

コミュニケーションサイト等を利用する場合には設定を「オン」にして、他者から自分を検索できるようにしている。「オン」にしていると、知らない人から連絡がくることがある。

ID検索の設定がここで確認できる

2013年9月30日よりKDDIに加えNTTドコモおよびソフトバンクモバイルのAndroid端末に対しても18歳未満ユーザーのID検索機能停止措置を実施。

コミュニケーションサイトに書き込む人の目的もいろいろ。悪意を持った人もいるからね。

18歳未満のユーザーには、ID検索機能停止措置がされていますが、安全に使用するためには、必ずID検索設定を「OFF」にしておくことが大切です。

スライド 1 4

知らないし怖い「登録時」の注意

アドレス帳内のLINEユーザーが友だちに追加される

自分の電話番号を登録しているLINEユーザーの友だちに自分が追加される

現在、携帯電話番号不足で解約した携帯番号を短い周期で新規契約者に割り当てられているため、「オン」にしていると、電話帳自動収集で「友だち追加」に覚えのない名前のユーザーが表示され、相手にもあなたが表示されることがある。

必ず「OFF」にしておくことが大切です。

また、「友だち追加設定」の「友だち自動追加」と「友だちへの追加を許可」をOFFにしておくことが、トラブルを回避するうえで重要です。

現在、携帯電話番号不足で解約した携帯番号を短い周期で新規契約者に割り当てているため、「オン」にしていると、電話帳自動収集で「友だち追加」に覚えのない名前のユーザーが表示され、相手にもあなたが表示されることがあります。

スライド 1 5

「ウケ」狙いで、度の過ぎた悪ふざけ画像を投稿

自分の仲間に「ウケる」ことが最優先で、度の過ぎた悪ふざけをLINE上に公開。また、その周囲には、写真を撮ったり、あおったり、ツイッターなどに投稿したりする者がいる。

「ツイッターに投稿したらいっぱい反応があるぞ。楽しんだ。」

ところが…ネット利用者の間でもおそらく半分に画像を手がかりに投稿者を特定。アルバイト先や学校に通報され、退学や解雇に。ネット上には、経緯とともに実名が残ってしまった。こんなことになるとは…。

続いて3番目の事例ですが、「ウケ」狙いで、度の過ぎた悪ふざけ画像を投稿しているケースがあります。

自分の仲間に「ウケる」ことばかり考え、自分が投稿した内容に対する反応を楽しんでいる行為が見られます。

線路上で寝転んで写真撮影したものや、飲食店の冷蔵庫に入り込んで写真撮影したものなどのニュースをみなさんお聞きになったことがあるでしょう。行為そのものは決して許されるものではありません。しかも、その結果、投稿者が特定され、アルバイト先や学校から厳しい処分を科されたり、1千万円以上の多額な賠償を請求されたりしています。それだけで終わらず、アルバイト先が営業停止に追い込まれるなど、多大な迷惑をかける場合もあります。おそらく、投稿した本人は、ここまで想定せずにやってしまったのでしょう。軽い気持ちで、大変な結果をもたらすことを、子どもたちに理解させなければなりません。

スライド 1 6 事例-3 事例(中学1年 男子) 中学1年生の男子Aは、LINEの仲間を増やす手段として周囲の友だちがおもしろがりそうな画像を送ることを思いつき、終わりのホームルームで、持ってきていたスマートフォンで教師の様子を撮影。 撮影した画像を自宅で加工してLINEに投稿。 多くの者に見せようと、メールをクラスメートに送りつけたため、その中の不審に感じた生徒の報告により発覚。 ※高校生が鉄道の軌道内に入り写真を撮影したり、アルバイト店員が店で販売している食品の上に寝そべった写真をツイッターにアップしたりするなどの事件が多く発生している。	これは、画像の投稿によるトラブルの事例です。 (スライドの内容を読む) まず、この事例でも被撮影者の人権を侵害していることになるのではないのでしょうか。しかも、投稿者が特定され、保護者も含めて、学校で厳しい指導を受けています。仲間を増やしたいという願望のためだけに、このような軽率な行動をしてしまったわけです。
スライド 1 7 LINEとツイッターの違い コラム  トークをしている人以外に発言を見られることはない。  全世界に向けて発信され、だれでも発言が見れる。  LINEのグループ中で起こっていることは、周りからは見えないってことなんだ。 ウケ狙いで変なことしてないといいたくだけど。	続いて、子どもたちが日頃よく利用している「LINE」と「ツイッター」の違いについて、少しふれておきます。 「LINE」は限られた仲間でグループを作り、その中でコミュニケーションを図っているのでトークをしている人以外に発言を見られることはありません。しかし、その一方でグループ以外の人たちから見られないことを利用し、グループ内で誹謗中傷などをしてしまう危険性があります。また、受け取ったグループの仲間がその内容を外部へ漏らしてしまい、広がってしまう危険性もあります。 「ツイッター」については、誰もが全世界に向けて発信し、その内容について誰もが発言することが可能です。その性質から発言内容には十分注意する必要があります。 また、写真に GPS 情報が付加されていると、安易に写真を投稿することによって、居場所を特定され、犯罪に巻き込まれた事例もあります。子どもたちのやりとりの中から、家に親が不在であることを知った上で悪事に至るケースもあるようです。
スライド 1 8 暇つぶしで始めたはずが依存症に 事例-4 ネットゲーム、ツイッター、動画共有サイト…… LINEの場合は自分の意思だけではやめられない場合も  いつも会話に参加していないと不安になってくる。 友達からはずれてしまうのは怖い。 気がついたら、食事の時もスマホを離せなくなってる。 【こんなことはないですか】 ・スマホを持ったまま寝る ・スマホを持ったまま入浴 ・だれといっても常にスマホが気になる ・スマホがないと、強い不安に襲われる	最後に、暇つぶしで始めたはずのネットゲームや LINE がいつまでもやめられず、依存症になってしまうケースです。 ネットゲームやツイッター、動画共有サイトなどが面白くて続けてしまう場合はもちろん、LINE については、自分の意志だけでやめられない場合もあります。スマホを離れた時にグループから外されてしまうかもしれないという不安から、気がついたら食事の時もスマホを離せなくなっていることもあるようです。スマホを持ったまま寝たり、スマホを持ったまま入浴したり、だれといっても常にスマホが気になったり、スマホがないと強い不安に襲われたりする場合は要注意です。

スライド 19 事例 4 事例（中学3年 男子） 中学3年生のAくんは、LINEでいくつかのグループに属している。スマホの画面にはメッセージが流れっぱなし。ついて行くのに必死。苦痛に思っているが、友だち関係がそこで成立しているのを抜けるわけにはいかない。 そして、自分が見ていない間にどんな会話が行われるのかが気になり、布団の中まで持ち込む。ついつい夜中まで。体調を崩してしまい、熱心に活動していた部活動を休むことも。そのうちに、成績も低迷。 彼にとってLINEのつながりは、そのまま現実での人間関係になっており、仲間はすれになってしまうのでは、という思いが、やめようと言う意志をかき消してしまっていた。	これは依存症の事例です。 （スライドの内容を読む） この事例のようなことは、特定の子どもだけに起こることではなく、スマホなどのツールによるコミュニケーションによって仲間づくりを行っている現代の子どもたちの誰にでも起こる危険性があります。 また、コンビニなどで、子どもたちがゲーム機を持って集まっているのを見かけたことはありませんか。フリースポットといって、自由に無線 LAN が使える場所があり、そこでインターネットに接続しているのです。
スライド 20 最後に ○子どもたちの利用実態をつかめているでしょうか？ ○トラブルを素早くキャッチできているでしょうか？ ○家庭への啓発、子どもたちへの指導ができているでしょうか？	さて、わたしたちは、子どもたちの利用実態をつかめているでしょうか。 子どもたちはわたしたち以上に知識は豊富かもしれません。子どもたちの利用実態の特徴をしっかりと把握することがとても大切です。子どもたちのトラブルを素早くキャッチすることができる体制を作っておくことが大切です。 そして最後に、トラブルが起こる前に子どもたちにしっかり指導しておくことが大切です。